

418 1890

新島山

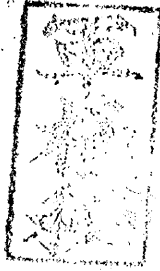
戦時日誌

"ABUKUMA"

捷号作戦

軍艦阿武隈

阿武隈



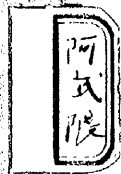
海軍功績調査部長殿

十月一日送付

自昭和十九年十月一日
至昭和十九年十月三十一日

目次

- 一 作戰經過概要
- 二 人員現狀
- 三 令達報告等
- 四 參考
- 五 船体兵器機關等
- 六 醫務衛生
- 七 會計經理



（目次終）

七	六	五	四	三	二	一	日
八島	沖國					岩	所在
四北 料四	北東 料二	北東 料三	北東 料五	北東 料八	北東 料二	北東 料七	氣候 概況 (料)
北東 料六	北東 料五	北東 料三	北東 料二	北東 料一	北東 料五	北東 料四	風速 氣温
北東 料五	北東 料一	北東 料八	北東 料二	北東 料九	北東 料四	北東 料五	
隊戰雷水一第隊艦五第							任務
隊部擊遊二第							任務
出港 料六	出港 料四						經過 概要
							記
						岩國 空見學 初春入港	事

一作戰經過概要

一四	一三	一二	一一	一〇	九	八
吳						
北晴 三〇 北西 料二四	北晴 一五 料二	北晴 二六 北東 料三四	北晴 一九 北西 料一四	北晴 一九 料五	北晴 一九 料五	北晴 二〇 北西 料三七
北晴 二〇 北西 料三八	北晴 五六 料〇	北晴 二〇 北東 料八三	北晴 二〇 北西 料七三	北晴 二〇 北東 料二	北晴 三〇 料二	北晴 二〇 北西 料一八
北晴 二〇 北西 料二二	北晴 二〇 北西 料一七	北晴 二〇 料三	北晴 四〇 料五	北晴 二〇 料一	北晴 二〇 北西 料一〇	北晴 二〇 北西 料三四
隊戰雷水一第隊艦五第						
隊部擊遊二第						
一七〇 岩國沖着			一六〇 七番浮標二擊手留替		九三〇 丁鋪地二擊手留替 機銃増備工事	

阿波

二人員ノ現状
 (一)職員官氏名

職	主務	官	氏名	記事
艦長		海軍大佐	花田卓夫	
副艦長兼分隊長		海軍少佐	清水芳人	
航海長兼分隊長		海軍少佐	吉井俊雄	
航海長兼水雷長		海軍大尉	野尻雅一	
通信長兼分隊長		海軍大尉	鈴木豊作	十月八日退職
兼通信長兼分隊長	一水戰參謀	海軍少佐	星野清三郎	
分隊長	兵科分隊長	海軍中尉	藤永隆雄	
乘組	砲術士	海軍中尉	濱尾誠	十月七日退職
乘組	砲術士	海軍中尉	國本鎮雄	
乗組	航海士	海軍少尉	岸本房男	

4

乘	軍醫長兼分隊長	乘	乘	分	分	分	機	乘	乘	乘	乘	乘
組	軍醫長附	組	組	長	長	長	長	組	組	組	組	組
軍醫長附		機	罐					航	暗	通	砲	砲
海軍軍醫大尉	海軍軍醫少佐	海軍少尉	海軍豫備中尉	海軍大尉	海軍豫備大尉	海軍大尉	海軍少佐	海軍豫備少尉	海軍豫備少尉	海軍少尉	海軍少尉	海軍少尉
矢木	矢野	西川	土居	梅木	中條	秋友	諸隈	本田	榎木	有村	土肥	伊規
勲	野一二	武夫	良策	實	祿展	久藏	伊六	俊雄	寛方	政男	康之	須太郎

河武殿

乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	主計長兼分隊長
組	組	組	組	組	組	組	組	組	組	組	
掌機長	掌内務長益進	水雷士	砲術科分隊長	砲術科分隊長	見張士	掌航海長	掌通信長	掌砲長	庶務主任	主計長附	
海軍中尉	海軍兵曹長	海軍兵曹長	海軍兵曹長	海軍兵曹長	海軍兵曹長	海軍兵曹長	海軍少尉	海軍少尉	海軍少尉	海軍少尉	海軍主計大尉
福田為雄	赤松未喜	大鋸海之助	尾垣光郎	清水森義	野口政樹	飯迫靜雄	真崎定夫	吉田武男	田中増義	白見信仰	福田祥之助

9690
430

三令達報告

左、外隊水面部隊司令部三同シ

日 元 時	宛 (通)	令 達 報 告	種 別
二〇日 P 2YB	2YB	九二三四五機がバオエ空ヲ北西ニ飛行中ニシテ二〇。頃、機群ヲ 攻撃ナリ一三〇以後對機群ニ攻撃或配備ニ六節即時得機ト ナセ 信令第百一四五號	發 光
一一日 P 2YB	2YB	一、ミンダオ西口(第一地區)及スリガオ海峡入口(第二地區)ハ敵潜水 艦潜伏ノ算ナリ 二、艦隊ハ第一地區ハ第一警戒航行序列第一地區ハ第二警戒航行 序列ヲ以テ驅逐艦二隻ヲ以テ警戒射撃ヲ身施シ、突破ス 三、水戰司令部ハ右ニ應ル射撃、配備及驅逐艦名共、他ヲ 定メ報告ヲ通報スベシ	發 光
一七日 P 2YB	2YB	2YB 信令第百四七號 阿武隈ハ八日付令ヲケレバ令ヲタシテ左、如ク行動期日。三〇。スリ ガオ海峡ニ突入ス 以下略	發 光
二五日 P 2YB	阿武隈 (艦隊)	阿武隈ハ横付ヲ速ニ放棄シ、變更シ阿武隈ハ湖ヲ 渡シ、カガヤシニ同航志急修理ヲ實施スベシ	手 旗

6.

四
参
考
待
ニ
ナ
シ

湖 一三。五	2YB NSB	湖機密等三三。五番電 二日ニ阿武隈沈没地点ヨリ三。度三七湮我人員救助中 並ニ救護ス大型機七機上空ニマシ	手 旗
阿武隈	湖	云々艦首ニ横付ケタム	手 旗
阿武隈 二六日 一。四五	湖	飛行機ノ危険ナキヤニ至ラ横付ケ並ニ曳航タム	手 旗
A 156	156	二潮阿武隈護衛任務ヲ同艦「コロ」回航迄ニ放ム 二阿武隈ハ今夜「コロ」ニ假泊應急修理ヲ行ヒタル後「コロ」 ニ回航セヨ爾後ノ行動ハ進テ令ヌ 三潮阿武隈護衛任務ヲ同艦「コロ」回航迄ニ放ム	手 旗
阿武隈	湖	カガヤンハ錨地不良ヲ付「コロ」湾ニ回航ス	手 旗

阿武隈

五、船体兵器機関等

(イ) 船体

(一) 臨戦準備

(一) 上甲板以上構造物をコンドレットと施行（原具を釣座より）

(二) 應急用水槽を設置

(三) 内火艇「カッター」固縛

(四) 内火艇ニ内火艇「カッター」ニ「カッター」陸揚げ

其他完備状態ニアリ

(ニ) 船体附属物損傷七欠

今次海戦前待ニナシ

(三) 改造修理新設事項

(一) 二十五糎鼻装機銃十基増備

(二) 内火艇ニ内火艇「カッター」ニ「カッター」を「カッター」より取外シ

阿波

(口) 兵 六

(三) 單裝機銃甲板滑止新設

(一) 砲戰準備

待ニナシ

(二) 主要兵器故障缺損亡失

今次海戰上故障缺損セシモノ待ニナシ

(三) 主要兵器改造修理新設

砲術科 二十五糎單裝機銃十基増備

機關科 溢レ出シ「タンク」漏洩部修理

(四) 主要消耗兵器

沈没ニ依ル亡失兵器全部 詳細不明

六、醫務衛生

一、出征中ノ衛生狀況

(1) 天候ノ概要並ニ氣象ノ衛生的影響、日

晴天ニ惠マレ氣候温順トナリ頗ル健康的ニシテ著シキ衛生的影響ヲ認メズ

(2) 出征中ニ於ケル治療品、被服糧食、飲料水及衛生ニ關係アル物品ニ關スル

事項並ニ搭載補給ノ概況

資料亡失ニ依リ不明

(3) 出征中ノ衛生狀況

衛生狀況ハ極メテ良好ナリ八日兵病ニ依頼シ總員血沈及胸部「E」線間接

撮影ヲ施行要入院ニ名、要注意四十一名摘發ス

傳染病流行病ノ發生ヲ見ズ

二、戰鬥ニ關スル事項

(1) 治療所要及應急員ニ關スル事項

前部戰時治療所ヲ治療室ニ前部洗身所ヲ兵員浴室ニ前部傷者收容所ヲ三兵員室後部戰時治療所ヲ士官室後部洗身所ヲ士官浴室ニ後部傷者收容所ヲ將官公室前ニ設ケ前部治療所員士官一、下士官一、兵一、後部治療所員士官一、下士官一、中部下士官一、醫務科員ヲ配シ前中後部應急員夫々十一名、十名、六名ヲシテ員傷者運搬ニ任セシム。

(2) 戦闘概要並ニ傷病者發生ノ概要

二十四日。ニ。〇。コロン」出撃二十五日。三一「スリガオ」海峡ニ突入ス。三一五敵魚雷艇ノ攻撃ヲ受ケ魚雷一第七兵員室直下ニ命中シ三十七名戦死三名ノ戦傷者ヲ出セリ。應急作業終了後突入續行敵陸上部隊魚雷艇隊ト交戦ス。五三五反轉シ「カガヤン」ニ向フ「カガヤン」同艇ヲ取止メ三三。〇「タピタン」着徹夜應急作業ヲナス二十六日。九五「B24」三十数機ノ攻撃ヲ受ケ一彈第三兵員室右舷一彈副長室左舷至近ニ命中シ戦死傷者多發ス相次イデ一彈三番砲下水線附近ニ命中一彈「カガヤン」上

左舷甲板ヲ再見シ後了機載重ニテ炸裂ス魚雷誘爆シ艦橋附近
 及後部大火災トナリ次イテ第三次攻撃ヲ受ケ至近彈十數發アリ
 火焰天ヲ被ヒ處置ナク一二八總員退去一二四二阿武隈沈没ス
 戦死二一七名 戦傷一一一名 被在 一七〇名ナリ

内 護衛士官以上 下士官兵
 月日 戦死 戦傷 戦死 戦傷

二五	二	〇	三五	三
二六	一三	七	二〇	四一
合計	一五	七	二四	一〇七

事
 戦死者約六〇%、酸化炭素中毒約四〇%、魚雷炸裂後依リ即死戦
 傷者中二名ハ二十六日戦死一名ハ更ニ戦傷ヲ負ヒタリ
 約六五%ハ爆彈創ニ依リ約三五%ハ罐室蒸氣噴出ニヨリ即死
 重傷中二名ハ二十七日戦死

(3) 傷病者後送ノ概要

二十六日三〇〇ヨリ一五三〇マデニ生存者ハ驅逐艦潮ニ收容サレ傷者ハ應急
 處置ヲ受ケ二十七日一二〇〇コロンノ灣ニ戦傷者一〇九名 戦病者一名ヲ
 待設病院船ニ乗シテ送院ス

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	月日
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	戦場河
曳圧機室	機関科指揮所	後部機機室	機関科倉庫	三四番砲	曳圧機室	全	機関科指揮所	發令所	前部電信室	前部電信室	戦半配置
少尉	少尉	中尉	中尉	中尉	大尉	大尉	少佐	番長	少尉	官職	氏
占部八郎	西川武夫	中平兼松	福岡為雄	藤永隆雄	梅木實	秋友又藏	誘隈伊六	野口政樹	吉田武男	名	創傷名
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	酸化炭素毒	死体收容不能即死
右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	創	彈創
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	記	事

(4) 戦死者表
 (4) 准士官以上戦死者表

河式帳

阿式帳

計	全	全	前部 指揮所	艦	橋	少尉	土肥	康之	右工眼被爆彈々片創同急 性結膜炎右手掌爆彈々片創	右肩上部切創腰部挫傷	○	○
	全	全									兵曹長	赤松

(四) 下士官并戦死傷者表(略)

七、會計經理

(一) 經費

十月八日吳経ヨリ。。。。。月受込

(二) 被服

消耗品 任用者用トシテ五十名分

貸與品 乙號毛巾一。枚、略靴一。

出撃時吳港務部へ被服梱六十八梱陸揚

受込

(三) 糧食

(1) 生糧品

七屯

吳軍需部ヨリ受込

二屯

馬公軍需部ヨリ受込

(四) 貯糧品

一屯

吳軍需部ヨリ受込

(四) 需品

消耗品

一月分吳軍需部ヨリ受込

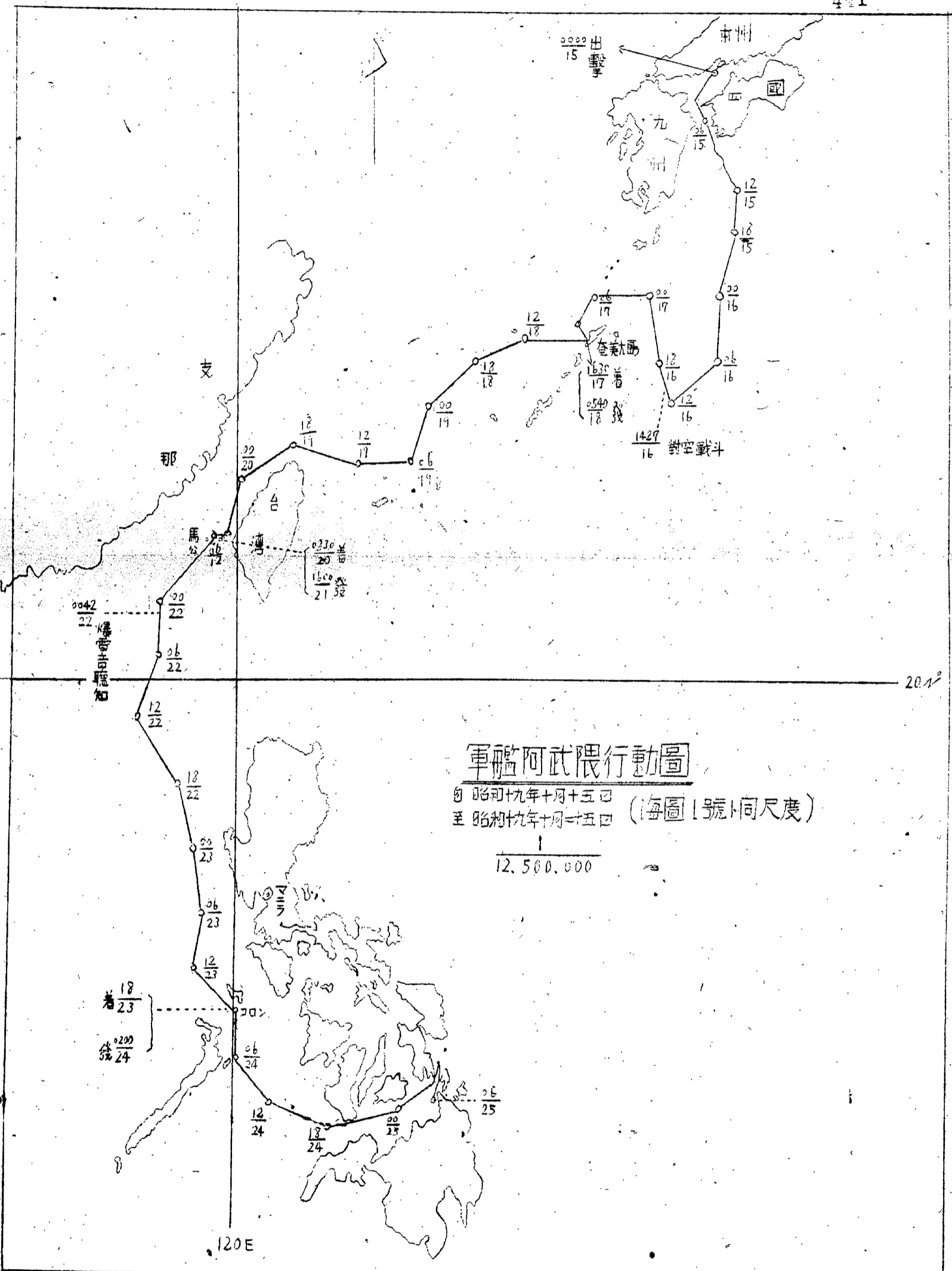
備品

砂糖壺外三十八箱吳需へ還納

(五) 酒尿物品

五屯 海仁會吳支部ヨリ受込

(終)



軍艦阿武隈行動圖

自 昭和十九年十月十五日

至 昭和十九年十一月十五日 (海圖1號1向尺度)

1

12,500,000

0607

軍機

8090

442

清箱機密第一九號

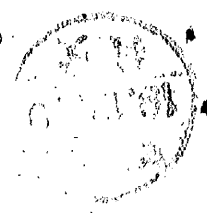
自昭和十九年十月一日
至昭和十九年十月三十日

驅逐艦清箱戰時日記

驅逐艦清箱

Kujyushimo

清箱



第五

第一
第二
第三
第四

(目次)

作戦経過概要
 人員の現状
 令達報告等
 参考

(一) 諸調査事項
 (二) 戦訓
 (三) 寫真

船体兵器航空機関等
 (目次終)

河式帳

清箱

0190

444

二		一		日		第一作戰經過概要	
航海中 一〇四度二分東 〇度四分北		航海中 一八三〇 カラビ泊地 〇八〇		航海中 〇六〇泊地			氣象 風象 天候 視界 氣溫 風速
八六三		四七五		六時前			
一八二		一五八		正午			
一五二		一〇八		六時後			
第二隊 戰雷 水 第二				一 一般任務		經過概要	
				二 特別任務			
一〇八〇 出港 カラビ泊地 昭南間 交通艇トミテ 昭南 二向フ 二一三〇 水上 基地着 基地負退艦塔 載物件卸去				一〇六〇 出港 カラビ泊地 ヨリ カラビ 泊地 鉾入 二 対潜訓練 二一八三〇 カラビ泊地着			
				記事			

1190

四		三		二	
カラビ泊地 一八五〇	航海中 二七二	航海中 一七四五	航海中 一七四五	港軍 一五二〇	港軍 一五二〇
六二七	薄雲 北東	薄雲 南南西	薄雲 南	半晴 北東	半晴 北東
一〇二八	薄雲 南南西	薄雲 南南西	薄雲 南	半晴 南	半晴 南
一三五〇	半晴 東	半晴 東	半晴 南	半晴 南	半晴 南
隊番 二					
一八五〇入港	一三五〇出港	四破豹諸訓練 卸方	一三五〇同地着	一三五〇出港	一三五〇同地着
二万榮丸上横袋給油	二万榮丸上横袋給油	基地負輸送物件 卸方	基地負輸送物件 卸方	基地負輸送物件 卸方	基地負輸送物件 卸方

乙	八	七	六	五
カ	航海中 一六〇	航海中 〇九五	カラシ泊地 一六〇	航海中 一〇五
南半 東晴	二七四 二七四	東半 晴	二七三 二七三	南半 東晴
南半 東晴	二〇九 二九六	南半 東晴	二〇三 三二二	南半 東晴
北半 東晴	二八五 二八五	南半 東晴	一五九 二九四	南半 東晴
一、破泊諸訓練 二、重油搭載(七丁)	一〇九五。出港 二、対潜訓練 三、一六〇。入港	一、破泊諸訓練	一、〇五。出港 二、対潜訓練 三、一六〇。入港 四、破泊諸訓練	一、破泊諸訓練

十三	十二	十一	一〇	九
港軍「夕」七		航海中 ○度四六分北 ○四度二分東 一六一〇	地泊「夕」ガ	
二半 四七 / 晴	二北半 四五三 西晴	二南半 四八二 東晴	二南半 四八二 晴	二南半 四七五 東晴
一二北 五八二 西晴	一二南半 五九二 東晴	一二北半 五八二 東晴	一二南半 〇〇四 西晴	一二南半 〇九四 東晴
一二北 二七三 東	一二南半 二九二 南東	一二北 五九二 西	一二南半 二九二 西	一二北 二八六 東
一諸兵器整備 二眞水搭載	一諸兵器整備 二糧食搭載	一破泊諸訓練 二〇〇出港 修理整備ノ爲 照南ニ向テ 三二六一〇日「夕」軍港 着 四眞水搭載	一破泊諸訓練	一破泊諸訓練 二眞水搭載(七二)

二十三	二十二	二十一	二十	十九
<p>一〇度二分北 二七度五分東</p>	<p>五度二分北 二四度四分東</p>	<p>〇八三〇 イネルブ</p>	<p>一三三〇 五度七分北 二五度二分東</p>	<p>六度二分北 二九度五分東</p>
<p>北快晴 北西</p>	<p>南快晴 南東</p>	<p>南半晴 南東</p>	<p>南薄曇 南東</p>	<p>北薄曇 北東</p>
<p>五六五 二二〇</p>	<p>二四八 一一八</p>	<p>二六八 二二〇</p>	<p>二四五 二二〇</p>	<p>二四八 一一八</p>
<p>北薄曇 北東</p>	<p>北半晴 北東</p>	<p>北快晴 北東</p>	<p>北薄曇 北西</p>	<p>北薄曇 北西</p>
<p>一三七 一八〇</p>	<p>一一二 五八七</p>	<p>一三一 五一〇</p>	<p>一三七 一五〇</p>	<p>一一二 二九〇</p>
<p>一航行諸訓練 二〇六三六味方重巡 敵潜雷雲受ク</p>	<p>一〇八三〇比島東方 海面向ヶ出艇手 二航行諸訓練</p>	<p>一碇泊諸訓練</p>	<p>一航行諸訓練 二二三〇アルネ以着 三三七〇出港大和 横付重油満載</p>	<p>一航行諸訓練</p>

二六		二五		二四	
航海中 0935 1217		航海中 1306 1830			
北快 四七九		西雲 四八五		北半 四八六	
東晴		北快 一三二		北半 二九二	
快晴		東晴		東晴	
一五八		一三二		二〇九	
二二三		一三五		一〇九	
東快 五二三		北半 二一五		北半 一〇九	
一〇九三五 二武藏乗員決風ニ 移乗後横付補給		一〇二五救助終了 コロヒニ向フ 二一三〇六コロヒニ着 三一八三〇コロヒニ向フ終		一〇九三〇ヨリ一五五〇マテ 敵艦爆撃聯合數十機 ト七度交戦 戦果 撃墜機三機 被害 爆弾中部二機 命中(命中位置) 艦橋破壊 コクピット小破 機銃六機負傷	

二十九		二十八		二十七	
二四度一〇分北 二九度二六分東	キヤビニア 〇七五〇	二四度一六分北 二〇度二六分東	一四一七	二〇二五 二二四五	〇〇二〇 〇一〇五 〇五二〇 二三度一〇分北 二〇度二一分東
二七一 三八〇	北半晴 北東半晴	二七五 二九四	北快晴 北東快晴	二八三 二九三	北半晴 西半晴 南東半晴
一二九 一二二	東半晴	一三〇 一三五	薄曇	二九七	東薄曇
<p>一〇七四修理ノ爲ガ ナカク汽橋ニ横付 二〇七五〇マニラ敵機 未襲射空戦斗 横付ヲ離ス 三〇九〇敵機未襲 マニラ港外ニ於テ之 ト交戦 戦果撃墜三機 被害機銃弾ニ依 リ五七十一番重油</p>		<p>三、重油満載 一、〇六一五リリ六五二 迄敵機シロリテマニラ 一機トヨシンドロ島ガ ラントト沖ニ於テ交 戦戦果被撃ナシ 二、一四一七キヤビニア 三、重油満載</p>		<p>一、〇〇二〇キヤビニア転錫 二、應急修理班便乗 三、〇五二〇マニラ向ケテ 四、二〇二五マニラ向ケテ 五、二二四五マニラ向ケテ</p>	

	三十	三十
	二〇一八	一〇二度三六分北 二五度〇三分北
	二七 四	北東 二八五
	一五 二七	北東 一三〇一
	一二 二九	北東 一五八二
	官乗艦 旗艦トナル	シク漏洩 戦死一名員傷九名 四〇九ニアルネ直ニ 向ケテ
	補給 三二〇一八投錨 四二三四〇ニ水戦司令	一六一七「ブルネ自 湾口通過 二一七五一椿名ニ横付
		一航行諸訓練

区分		職		主務		官		氏名		記事
	驅逐艦長	全	般	中佐	梶本	巖				
	砲術長兼分隊長	主砲	指揮官	大尉	門脇	尚一				
	航海長兼分隊長	信號見張	通信指揮官	同	伊藤	實				
	水雷長兼分隊長	射撃	射撃指揮官	同	星野	友慶				
	機関長兼分隊長	運轉	指揮官	同	矢作	佐一				
	隊 主計長			主大尉	大原	徹夫				
	隊 組	通信士兼航海士		中尉	卷	石藏				
	隊 附	軍 醫	長	中尉	古澤	久英				
	隊 組	掌内務長兼電機長		少尉	大澤	勇治				
	同	機関長	附	機管長	根本	興四郎				
	同	掌務長兼主計長		同	金庭	國藏				

清霜 十月三日 一五三〇	P /YB	P /YB	P /YB
大和能代 野分早霜 金剛天劍	清霜 十月三日 一五三〇	艦隊 十月九日 一五四〇	前進部隊 十月十七日 一四二〇
中部 = 爆彈命中 出た得ハ速力ニテ一節一番聯管破壊 今、所無線連絡不能	武蔵、護衛ニ当レ	特電令作ヲ三六〇号 捷一号作戦發動(一七三三)	第1YB 信令作第3号 第一遊撃部隊ハ左ニ依リ EW出撃BNニ進出不 出撃要領 ① 第二部隊先頭隊出港時刻一八日〇一〇 ② 出港順序第三(部隊)指揮官所定 ③ 以下略 5J 16J 2J 1J 順
話電号信	号信	号信	号信

P YB	P GF	妙高	P YB	清霜 十月三日 二〇〇五
十月二十一日一五六 妙高長我清霜	十月二十六日一三八 妙高(P/YB)	十月二十五日一八五 長波 十月二十六日一八五 情霜 P/YB P/YB P/YB P/YB	十月二十四日 浪風清霜 大海P/GF 2Jd 2F P/GF	浪風
YB/YB 機密第一二六〇五〇番電 電令作第一二四号	GF 機密第一二六〇七〇八番電 当隊本日夕刻コロコ入港迄出港待テ	妙高機密第一二五〇七四三番電 YB機密第一二四三三八番電 妙高機密第一二六一六番電、予定変更 コロココロコ港着	YB機密第一二四三三八番電 武藏兼乗員ヲマシラニ輸送コラル後コロコ 乗二周航妙高艦長、指揮ヲ受テ同艦 及日榮丸ヲ警衛ニ任スバシ	左、奔電、願ヒス 完日清霜 本艦武藏、弱者ヲ救助中本艦今後、 行動ニ関シテ、指令ヲ出ス 通報 P/35 P/25d P/105
信電	信電	信電	信電	号信

<p>2F 参謀長 十月三十日 霜</p>	<p>十月三十日 霜</p>	<p>十月三十一日 霜</p>	<p>十月三十一日 霜</p>	<p>十月十八日 霜</p>	<p>十月十八日 霜</p>	<p>P ZSD</p>	
<p>十月三十一日 P ZSD 早霜 藤波</p>	<p>十月三十一日 P YB ZSD 津風</p>	<p>P YB ZSD 早霜</p>	<p>P YB ZSD 早霜</p>	<p>P YB 熊野</p>	<p>P YB ZSD 早霜</p>	<p>P YB</p>	<p>十月三十日 三三</p>
<p>2F 機密第三。一七三一番電 仰電令作第七九号関联 支援部隊編入、駆逐艦五中時雨(大破) 清霜(中破)使用速力十八節、見込 早霜藤波目下消息不明</p>	<p>清霜機密第三。一〇一五番電 清霜三十日一三〇。位置一〇度四六分 N一五に合同二関シ指示ヲ乞フ</p>	<p>清霜機密第三。一九一〇番電 修理ヲ止メ、八三。向リ川奔港外ニ於 テ敵機十数機ト交戦撃退セリ、銃撃 ニ依リ重油タンク漏洩戦死傷者七名 戦果一機撃墜</p>	<p>清霜機密第三。一九一〇番電 本艦補強、為破損之ニ一聯管機部 ヲ取除キ、二直宣上部、必急修理ヲ行 フ、修理ニ一日半ヲ要ス、三十日午右開航 ニ日午後B1着、予定</p>	<p>清霜機密第三。一〇一五番電 我敵コンクリート一様トニ交戦中地英 艦機ハ押入メ、爲メニ一七五度手速</p>	<p>清霜機密第三。一八〇一三番電 赤燈左被弾ニヨリ十八節以上特ニ船体 振動大ナリ 一被爆ニ依ルニ直宣上甲板補強部破損 ニ左機進器翼尖史端一枚帽ニ三極長サ 三ニ極厚二五種、個所ニテ切損(斧形) 管ニ被弾、際技葉葉臭雷、解衝意</p>	<p>2SD 機密第三。一〇一五番電 一YB信令第一九六三ニ依ルニ補給終了予定 第一(赤波)洋波(島月)のシ。 第二(赤波)洋波(島月)のシ。 會合ニ見込、 ニ沖波藤波ヲ熊野、破。或ニ当ラシム</p>	<p>熊野ハ恩スレハ一層必急修理、上ノマシニ 回航内地回航ニ必スル差当リ、整備ニ 着手セヨ</p>
<p>信 電</p>	<p>信 電</p>	<p>信 電</p>	<p>信 電</p>	<p>信 電</p>	<p>信 電</p>	<p>信 電</p>	

第四參考

一 諸類查事項

二

戰

詳

戰詳報第二号参照

三

寫

真

(略)

二人負

戰死... 戰傷掌砲長下士...

三四

四 亮見

以左推進... 中部破孔、為

振動大ニシテ十八節以上、航行困難

入渠修理、要ス

四戰死傷者中、掌砲長及機銃員三十八名

ハ速ニ補フルコト要ス

五七十一番 重油「タンク」 左舷内火艇 「カビット」	水線附近ニ機銃 彈ニ依リ破孔浸水ス	三九日「マ」ニ対空 戦中機銃ニ依リ	被雷直撃破孔部ニ木栓ヲ打 込ミタルモ小破孔部ハ木栓打込 不可能ニテ使用不能 是日自衛隊海軍工作部ニ陸揚ス
一ニ内火艇	破損使用不能	三四日対空戦中 直撃弾ニ依リ	三八日第百三海軍工作部ニ陸 揚ス
改造修理新設			
工事ノ内容 等重海軍工作部ニテ中 甲板破孔箇所底急修理 第百三海軍工作部ニテ三番 取巻機籠台底急修理	着手年月日 十 二八	竣工(予定) 月 十 二八	理由 三四日対空戦中直撃弾ニ依 リ破孔箇所ニ浸水、俱マルニ付 三四日対空戦中直撃弾ニ依 リ破損使用不能ニ付

一水	一銃	一護	一機	九六式三五機銃二基	二式方位盤旋回方向角送信器	九六式管制器旋回俯仰制子	九六式九寸探照燈 前面硝子及反射鏡	兵器	名	情	况	原	因	處	置
筒	砲	耳	鏡	覆	破	全	破			全	右	全	右		
25	20	28	1		損	右	損			全	右	全	右		
					戰時被爆	全	右			全	右	全	右		
					依ル	全	右			全	右	全	右		
						全	右			全	右	全	右		
						全	右			全	右	全	右		
						全	右			全	右	全	右		
						全	右			全	右	全	右		
						全	右			全	右	全	右		
						全	右			全	右	全	右		

(一) 砲術科

(二) 兵器

(a) 臨戦準備(第一作業)

(b) 主要兵器、故障缺損亡失

秋霜

兵器名	状況	原因	処置
九三式四联装发射管四型	破壊(三管亡)	爆彈命中	新規受入ヲ要ス
魚雷戦子備指揮所	亡	ス	ス
九三式魚雷一型改二	六例亡	ス	ス
空員用頭部二型	八例	ス	ス
九八式縦飛機改一	六例	ス	ス
二式爆發火	五例	ス	ス
九三式魚雷三型	四例毀損	機銃彈母具損	工廠修理ヲ要ス

(二) 水雷科

一 防彈「チヨッキ」	亡	失	
一 機銃要具筐	全	全	
一 彈倉	全	全	
一 彈藥	全	全	
一 打針	全	全	

(三) 航海科

工事	内容	着手月日	竣工(予定)日	理由
夜光秒時計一型乙		一〇二	一〇一三	硝子破損ニ付
全右		〃	〃	秒針時停止スル付
秒時計毎日捲一型(改)		〃	〃	硝子破損ニ付

(四) 通信科

工事内容	着手月日	竣工(予定)日	理由
電線	一〇二	一〇二	折損セルニ付
三號無線電話送話増幅用紙蓄電池器	一〇二	一〇三	絶縁不良ニ付
蒸溜水	一〇二	一〇三	蓄電池補液用

秋霜

工事内容	空三採用圧力計	着字年月日	元一〇二	竣工年月日	元一〇一三	理由
	護射管連接筒寒気弁					漏指度不良
	同右排気弁					漏
	シ A 弁					
	護射管空三取保寒気弁					
	頭部分離要具					蓋車折損
	後部結合要具					接合部止栓折損
(三) 航海科						
(四) 通信科						

(ハ) 主要兵器改造修理新設
 (ニ) 水雷科
 (ヒ) 砲術科

名	稱	消耗量	補給量	記号
十三七砲	通常彈炸藥共	二七四	〇	
九式	時限信管	二七四	〇	
九式	伝火筒	二七四	〇	
一	當中装藥	二七七	〇	
三	號電氣火管壺	二七六	〇	
一	照明・彈	二	〇	
三	五耗機銃彈藥包	一二〇〇	〇	
一	十三耗機銃彈藥包	八五〇	〇	

二
一) 主要兵器、消耗及補給
砲術科

秋霜

→ 水雷科

名	稱	消費量	補給量	記事
406 式爆雷改二完備		一五匁	〇	
二號爆破鈎改一完備		四匁	〇	

(三) 航海科
ナレ

(四) 通信科
ナレ

一 二番煙突	变形破損	爆風ニ依リ	ス
全石給氣及給氣路	破損	爆彈命中	ス
三四五六号送風機鐵戸	開閉不能	ス	ス
全石通路	切断	ス	ス
四號送風機	六〇程重下ニ依リ運轉不能	ス	ス
二號補助蒸氣管	フランジ接手部蒸氣漏洩	ス	ス
二號主蒸氣管	主塞止所部フランジ開閉	爆風ニ依リ存着	ス
二號蒸氣管	破孔數箇所	彈片ニ依ル	ク
左舷推進器	羽翼先端切断	被害時臭雷投棄依リ	新塊換装ヲ要ス
二號蒸氣罐	主塞止所部蒸氣管安全弁付損ヨリ蒸氣漏洩	爆彈命中依リ馬緩	工廠修理ヲ要ス

三機関
 (1) 臨戦準備(第一作業)
 軽質油還納 G八〇〇五 P₂ 二六〇〇五
 可燃物水線下移動格納 應急用材及應急要具、整備
 重要機関故障欠損亡失

秋霜

主要機関整備

機械部

月日	内容	作業員	作業時数	作業程度
十一月十七	蒸気漏洩部修理	下士官 六四	六〇	九〇%
十一月十六	蒸気漏洩部修理	下士官 三二	六〇	一〇〇%
十一月十六	蒸気漏洩部修理	下士官 二四	六〇	九〇%
十一月十六	蒸気漏洩部修理	下士官 五三	八〇	一〇〇%
十一月十五	蒸気漏洩部修理	下士官 三四	五〇	八〇%
十一月十五	蒸気漏洩部修理	下士官 三四	五〇	八〇%
十一月十五	蒸気漏洩部修理	下士官 三三	六〇	九〇%
十一月十二	蒸気漏洩部修理	下士官 三三	六〇	九〇%
十一月十二	蒸気漏洩部修理	下士官 三二	六〇	一〇〇%
十一月十	蒸気漏洩部修理	下士官 一五	九〇	一〇〇%
十一月九	蒸気漏洩部修理	下士官 六五	六〇	九〇%
十一月五	蒸気漏洩部修理	下士官 三三	三〇	一〇〇%

二 罐部

			期	主機械、制式及數	計
	航海中	即時待機(節)	十九、十、一、十九、十、三十一	制式艦本式衝動タービン 高圧機 巡航高圧機 各三基	
(時一分)	十五分待機(ク)	ナレ			
(三四節以上)	三分待機(ク)	ナレ			
又八全カ)	一分待機(ク)	ナレ			

(ハ) 機関待機

十一、五	二号發電機分解検査	碇泊時	下士官三	八一〇	八〇%
十一、六	全	ク	ク	八一〇	一〇〇%
十一、十	應急灯充電手入	ク	下士官一	一〇一〇	三〇%
十一、十五	二号發電機燃料混掃除	ク	下士官二	六一〇	七〇%
十一、十六	二号發電機冷却水ポンプ交換装	ク	下士官二	六一〇	八〇%

(三) 電機部

秋霜

記 事	航海中	即時待機(節)	八一三〇(十二節) 一六一三〇(十六節)	二五一〇
	(時一分)	十五分又八三分 待機(分)	三一三〇(十二節) 〇一三〇(十四節)	三一五〇
		三十分待機(分)	三一三〇(十二節) 一三一〇(十六節)	四四一四〇
		一時間待機(分)	五一二〇(十二節) 三一五〇(十六節)	九一一〇
		二時間待機(分)	二一三〇(十六節)	二一三〇
		四時間待機(分)	三一五〇(十六節)	三一五〇

四 工作

- (一) 臨戰準備(第一作業)
- 可燃物, 水線下格網
- (二) 工作機械, 整備
- 特ニテ

衛生 衛生 衛生

一、出征中、衛生狀況
(1) 受療患者、狀況

(四) 送院及委託患者、狀況

心	清		新	
	現負患者	輕業休業	外傷	性病傳染病其他
軍	三四八	四四一	戰傷六	計
十月	二四四	一六〇	一	
比較	(一)九六二	(二)三七〇	(三)六二	(四)六
前月	(一)九六二	(二)三七〇	(三)六二	(四)六
比較	(一)九六二	(二)三七〇	(三)六二	(四)六

傷病名 負數 送院委託先 記 事

右胸膜炎	一	一〇	海軍病院	十月十日送院即日橫回送籍
戰傷患者	二六	一〇	三海軍病院	十月二十六日送院
戰傷患者	二	三	海軍病院	十月二十八日送院

(三) 天候 概要 並ニ氣象、衛生的的影響

氣	溫	濕	度	氣	壓
最大	最小	平均	最大	最小	平均
三六・二	二七・〇	三〇・三	九四・七	八九	七五・八
二七・〇	三〇・三	九四・七	八九	七五・八	七六・三
二七・〇	三〇・三	九四・七	八九	七五・八	七六・三
二七・〇	三〇・三	九四・七	八九	七五・八	七六・三

(二) 出征中ニ於ケル治療品、搭載補給、概要
備品 消耗品 藥品

秋霜

5699
475

分
字
録
第
一
冊

捷子作

驅逐艦 秋霜戰時日誌

秋霜機密特第 三 號

自昭和十九年十月一日
至昭和十九年十月三日

一
月
一
日
送
付
印

秋
霜

目次

一	作戰經過概要
二	人員現狀
三	主要令達報告
四	參船兵器機關等
五	

秋霜

9690477

十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日	
地 泊 ガ ン リ										在 所	
/										六 午 時 前	氣 象
										正 午	天 候
										六 午 時 後	風 向 風 速 視 界
隊 戰 雷 水 二 第 隊 艦 三 第										任 務	一 般
										經 過 概 要	
										記 事	

一
作
戰
經
過
概
要

十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一
中 海 航		航 南 昭		航 南 昭		航 南 昭	
陸軍第三十一軍司令部 陸軍第三十一軍司令部 陸軍第三十一軍司令部 陸軍第三十一軍司令部 陸軍第三十一軍司令部 陸軍第三十一軍司令部 陸軍第三十一軍司令部 陸軍第三十一軍司令部							
第二驅逐隊							
午後四時十分	午後四時十分	午後四時十分	午後四時十分	午後四時十分	午後四時十分	午後四時十分	午後四時十分
敵浮上潜水艦ヲ見シテ	敵浮上潜水艦ヲ見シテ	敵浮上潜水艦ヲ見シテ	敵浮上潜水艦ヲ見シテ	敵浮上潜水艦ヲ見シテ	敵浮上潜水艦ヲ見シテ	敵浮上潜水艦ヲ見シテ	敵浮上潜水艦ヲ見シテ
敵手(四本)ヲ又ケタルモ被害ナシ	敵手(四本)ヲ又ケタルモ被害ナシ	敵手(四本)ヲ又ケタルモ被害ナシ	敵手(四本)ヲ又ケタルモ被害ナシ	敵手(四本)ヲ又ケタルモ被害ナシ	敵手(四本)ヲ又ケタルモ被害ナシ	敵手(四本)ヲ又ケタルモ被害ナシ	敵手(四本)ヲ又ケタルモ被害ナシ

秋霜

0690
479

	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四
	イネルブ			中海航		
隊部一第隊部戦作號捷						
射撃ニ對シ聽音探信ヲ開始セル 毛捕捉シ得ズアルニ向フ	午前九時三十分アルネイに着	午前八時出撃手	午前七時摩耶敵艦ノ雷撃手 ヲ受ケ沈没セルヲ以テ即ガ敬言 戒避ニ乗員ヲ收容ニ任ズ 午後四時武蔵ニ横付テ摩耶 乗員ヲ移乗セシム	午前十時三十分敵ガラマニ 艦爆來襲對空戦闘 勢高被雷之ガ敬言故ニ留リ タル所任ヲ解カレ第一部隊ニ 合同午後零時一時三十分ニ 二三カ三時三十分敵機來襲 對空戦闘	午前三時六分島上觸衝 前部水線上魚雷ヲ生セルモ 戦艦沈没ニ至ラズ	戦艦沈没 三機
	第一遊撃手部隊アル ルニ入港		摩耶收容人員 七二六名	戦死 准士官以上一名 下士官兵士一名 主砲方位盤探照 灯破損		

二一七	二一六	二一五
<p>午前六時三十分先頭味方部隊敵水上部隊發見次デ對水上戰闘午前八時三十分敵艦逐艦ニ對シ主砲射撃を開始午前十一時三十分全十二時三十分午後一時三十分對空戰闘午後五時四十分早霜ノ故言戒ニ當リ第一部隊ト分離</p>	<p>午後九時三十分本隊ニ合同爲コロン艦ヲ發ガルネイニ向フ</p>	<p>午後九時三十分コロン艦ヲ着那知ヨリ急速補給</p>
<p>戰死 下士官兵一名</p>	<p>戰死 收容人員三八名</p>	<p>戰死 下士官兵三名 揚錨機室航上部及 剝離部ヨリ揚錨機 浸水推進機對美屆 曲ニ依リ振動大ト</p>

秋霜

航海隊長兼 分隊長	水雷隊長兼 分隊長	機関隊長兼 分隊長	砲術隊長兼 分隊長	驅逐艦長	職
信號見張指揮官	發射役射水測防 御指揮官内務長職務執行	運轉指揮官	射撃指揮官		主務
中尉	大尉	大尉	大尉	少佐	官
原田 實	佐々木 正勝	横山 金吾	古賀 慶一	中尾 小太郎	氏名
					記事

二人員・現狀
の職員官氏名

三十一	三十	二十九	二十八
航海中	パイロット	ブル	ブル
/			
<p>午前一時アルネイ着補給 損傷部應急修理開始 戦傷者並に收容者ヲ妙高 ニ移乘能代ヨリ人員補充 午後六時三十分マラニ向ケ アルネイ發</p>			

向下士官兵其他員數

機 械 長	機 関 長 附	掌 機 長	掌 砲 長	掌 水 雷 長	掌 内 務 長	司令 部 付	航海士 兼 通信士	全 石	第三 驅 逐 隊 付	通 信 士 兼 航海士
機 械 部 分 掌 指 揮 官	全 石	罐 部 分 掌 指 揮 官	砲 射 機 銃 群 指 揮 官	水雷砲台 附 運用部 附 砲台 指 揮 官	電 氣 部 附 工 業 部 附	電 測 指 導 官	主 計 長 職 務 執 行	軍 醫 長 職 務 執 行	暗 號 部 指 揮 官	
機 曹 長	機 曹 長	機 曹 長	兵 曹 長	兵 曹 長	少 尉	少 尉	少 尉	主 中 尉	医 中 尉	中 尉
佐 藤 善 三 郎	野 崎 順 三	及 川 幸 介	渡 邊 末 吉	小 野 慧 心	大 泉 六 郎	立 石 武 一	嘉 屋 本 茂 之	峰 村 秀 道	伊 東 六 郎	清 水 尚
							六月二十四日 能代遭難 依り給繼			

秋霜

兵科	機関科	工作科	看護科	主計科	合計
二二一	七二	四	一	一〇	三〇八

三 令達 報告等

不詳

四 参 考

特記事項ナシ

五 船体 兵器 機関等

(一) 船体

(二) 臨戦準備(第一作業)

十二日ヨリ十四日迄 昭南ニ於テ 第二内火艇及カッター

ボートニ副銃 應急飛並ニ 不要物件ノ陸揚ゲ

(三) 船体ノ損傷

秋霜

第一第二輕質 油庫 工部木倉庫	損傷部位	第一第二輕質 油庫 工部木倉庫	情況	鎮着部剝離	原因	島風觸衝	處	第三海軍工務部に於て修理結果良好	置
右舷銃孔附近 外舷水線上	場錨機空	彈部機銃 依り破口	壓潰	右	同	右	熔接	結果良好	同

修理改造新設

特記事項ナシ

兵器 器器

臨戰準備(第一作業)

特記事項ナシ

主要兵器ノ故障缺損亡失

砲術科

兵器名	情況	原因	處
主砲方位盤	被彈破損	對空戰鬥	艦内修理結果良好
			置

水雷科

探照燈
硝子遮光器破損
對空戰鬥
第三海軍工作部於修理結果良好

兵器名	二聯四番 管氣雷器	情況	被彈破損	原因	對空戰鬥	處	置
方位	左舷水雷盤	右	同	右	同		

(一) 主要兵器、改造修理新設

特記事項ナシ

(二) 主要兵器ノ消耗及補給

一砲術科

名稱	消耗量	補給量	記事
主砲通常彈	五一	〇	
二千五耗 通常彈藥包	一三〇〇〇	七五〇〇	
二千五耗 曳線通常彈藥包	四一〇〇	二五〇〇	

ニ 水雷科

三 航海科

四 機関科

(三) 機関

(1) 臨戦準備(第一作業)

特記事項ナシ

(2) 機関ノ損傷

島風トノ觸衝ニ依リ推進器翼屈曲右巡航ヲ行フ

嵌合ノ際嵌合辨ヲ全開スルモ發動セズ

(3) 主要機関ノ整備

秋霜

(四)

不詳
機關待機

工 作

(1) 臨戰準備(第一作業)

特記事項ナシ

(2) 工作機械ノ整正備

特記事項ナシ

(五) 醫務衛生

特記事項ナシ

(六) 合計 經理

特記事項ナシ

終